【投稿】反原発でなく安全性向上を

会員 加藤浩康

先人達が英知を集めて発展させた文明を一瞬にして飲み込んだ大震災は、大自然の巨大なエネルギーの前に私達が無力であることを思い知らせると同時に、私達が遥か彼方に忘れ去った「家族・一族・地域・民族」の絆がいかに大切であるかを知る機会を提供してくれました。

塚本三郎氏の直言を読みましたが、大震災について十人十色の考え方があるのは当たり前です。私は、先人達が不惜身命で嘗々と国家形成をし、世界に誇れる伝統・文化を築き上げた日本（日本人）が守銭奴化し、日本（日本人）らしくない国家・民族になり下がろうとしている時に巨大地震が起きたのは、真の独立自尊の国づくりに邁進せよとの天（先人達）の警告と理解しています。いま、何をすべきで何をしてはいけないかを識別し、日本人として精神的、物的な復興に向けて「考動」すべきです。

挙国体制で日本を再生するために、政府・与党は、^{おおみたから}百姓（国民）に向かって、子供手当をはじめバラマキ施策の廃止 外国人参政権付与、人権侵害救済法など日本解体法案の取りやめ 自衛隊を「暴力装置」と暴言したことへの謝罪と、大震災にも耐える町づくりの推進を宣言すべきです。特に原子力発電所事故により、早くも思想的な反原発運動が息を吹き返す兆しがあります。原発は単なるエネルギー問題ではなく、外交問題、国家安全保障問題の性格を有しており、安全な原発の構築を目指した議論をすることが大切です。